

1996年4月～2025年3月までに本院の矯正歯科で、不正咬合で矯正歯科治療を受けた方へ

研究 徳島大学病院矯正歯科における不正咬合患者の実態調査
の実施について

1. 本研究の目的および方法

不正咬合とは顎骨および歯などが、何らかの原因でその形態と発育と機能に異常をきたし、その結果、正常な咬合機能を得られていない咬合状態の総称です。不正咬合がもたらす障害には顎口腔領域で営まれる摂食、咀嚼、発音などの機能障害、ならびに審美性が損なわれることによる心理的障害などがあります。そのため矯正歯科治療においては、小児期から不正咬合の発生を予測し、それを予防すること(予防矯正)からはじまり、成長発育の時期には不正咬合の誘因を検出し抑制すること(抑制矯正)によって、口腔顎顔面ならびに歯列・咬合の正常な成長発育を誘導します。また成人から高齢者における不正咬合に対しては、顎口腔機能および審美性を回復させる治療(本格矯正)を行います。このような現状において、昨今の不正咬合を有する患者に対する矯正歯科治療の実態を把握することは、今後の治療方針の指針となることに加えて、患者に対して適切な情報提供を行うためにも大変意義深いものであると考えられます。そこで本研究では、近年の本院における不正咬合を有する患者に対する矯正歯科治療の実態と動向を把握することを目的として、不正咬合と診断され、矯正歯科治療を施行した症例の臨床統計学的調査を行います。

研究対象者：1996年4月～2025年3月までに当院矯正歯科にて不正咬合と診断され治療を開始した方

予定症例数：3500 症例

研究実施期間：徳島大学病院医学系研究倫理審査委員会承認日～2025年3月 本研究は徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会の承認を得て実施しております。

2. 研究に用いる試料・情報の種類および保管方法について

情報：診療録、パノラマエックス線写真、CT、頭部エックス線規格写真、口腔内写真、口腔模型、問診票、カルテ番号等

保存場所：徳島大学大学院口腔顎顔面矯正学分野教授室（責任者：田中栄二）

保存期間：研究終了後5年（5年以上保存する場合は延長申請を行います。）

データを二次利用することはありません。

3. 研究結果の公表について

本研究の結果は学会や雑誌等で公表することがありますが、公表に際しては特定の研究対象者を識別できないように措置を行った上で取り扱います。

4. 研究資金および利益相反管理について

本研究における特別な研究資金はありません。本研究は、本院の研究費のみを使用して実施されます。本研究の利害関係については、臨床研究利益相反審査委員会の審査を受け、承認を得ております。

5. 本研究への参加を拒否する場合

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

6. 研究責任者および連絡(問合せ)先

【研究機関】 徳島大学病院 矯正歯科

【研究責任者】 徳島大学病院 矯正歯科 教授 田中 栄二

【連絡先】 TEL:088-633-7357 徳島大学病院矯正歯科 教授 田中 栄二

本研究への参加に同意しない場合は、連絡先までご連絡下さい。